

「チロルとドロミテハイキング 10日間」を9月6日～9月15日に行いました。

日本は9月に入ると気分的に夏は終り、残暑でうんざりさせられますが、ここチロルでは乾燥から花は枯れてしまうものの静かな夏の終わりと言ったところ。今年も晩夏の落ち着きを求め、優雅なチロルツアーに出かけました。

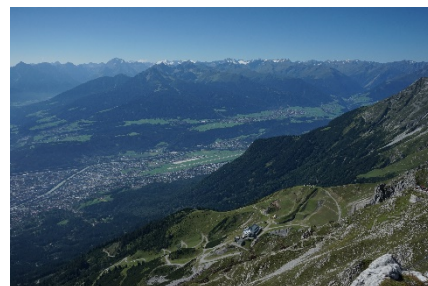
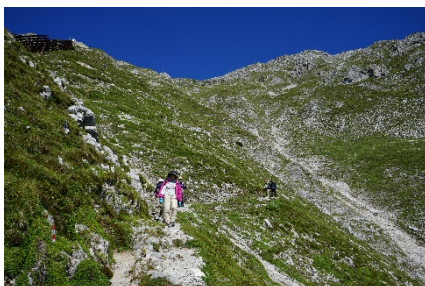
到着空港のミュンヘンで一寸早くオクトーバーフェスタ気分でビールを飲んでから、チロル、ドロミテ、ザルツカンマーゲートを巡り、最後にザルツブルグでモーツァルトの歌曲(一部分)を聞きながらディナー&コンサート。ホテルは優雅さを求めた4ツ星ホテルです。



(ドライチンネ 9/10日)

○ミュンヘン～インスブルック

9月に入れば本場ミュンヘンはオクトーバーフェスタ(ビール祭り)の前哨戦が始まります。そんな訳で空港からビールの殿堂ホプフロイハウスへ直行し、旅の門出に乾杯。そしてゲーテやモーツァルトなど著名人が泊まった(ホテルの前にプレート有)インスブルックの歴史的ホテルへ向かいました。翌日は一寸失敗、と言うのは例年通りシュトバイタールのトップ・オブ・チロルへ向かったところ、ロープウェーが数日前から運休中。再びインスブルックに戻り、市内の北方に壁の様に聳えるノルトケッテ連山へロープウェーで登りハイキングをしました。



○インスブルグ～コルチナダンペッツォ

オーストリアとイタリアの国境に有り、古来よりイタリアと北東ヨーロッパを繋ぐブレンナー峠を越え、乾燥した大地に異彩を放つ岩峰サツルンゴへ。何故かこの地は今年も平日にかかわらず大賑わいで、パラグライダーが飛び、映残るエーデルワイスを探しながらハイキング。翌日はポルドイ峠からこの地方の最高峰マルモラーダ(3343m)を正面に見つるパン

小屋へ、更に足下のフェダイア湖へ向けハイキングを続けました。どこの国でも有るのでしょうか高校生と思わしき 100 人以上の人達が先生に引率され集団ハイキング。通り過ぎる元気はつらつとした姿に圧倒、当たり前ですが我々と半世紀の差が有る人達です。



(サツソング 9/8 日)



○ドライチンネ

3 峰の奇岩で構成された大岩峰のドライチンネを遠望する景勝地のミズリーナ湖に寄ってから、中腹 2300mにあるオーロンツォ駐車場へ。ここは土曜日と有って朝から既に車の列。この岩峰の周回は左右どちらでも良いとされていますが、流れは右回り。私達はラバレド小屋に泊る関係で流れと反対の左回り。その為行交う人達が大勢いて、何度も何度も挨拶のボンジョルノ・・・。



(ドライチンネ 9/11 日)



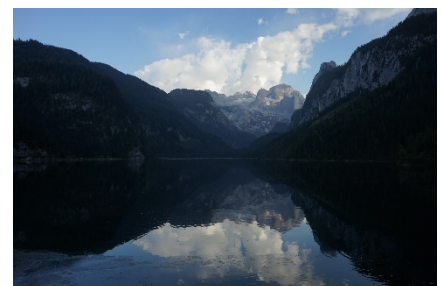
○ザルツカンマーグート

再び国境を越えてオーストリアへ入り、聖なる地で有名なハイリゲンブルート、オーストリアで一番高いグロスグロックナー山(3798m)麓の展望台・フランツヨーゼフヘーエに寄ってからザルツカンマーグートへ向かいました。宿泊ホテルのコーラはこの地方にマッチし、古くは王様の狩猟の休憩所として使用されたとか。今年は快晴続きで、筆者の運がいいのかどうかわかりませんが 8 月 20 日に日本を発ってから殆ど雨に降られていません。よく雨にやられたザルツカンマーグートも快晴で、シャーフベルグへ SL で登り中間駅までハイキング、遅いお昼は「世界の湖畔で最も美しい」と言われるハルシュタットの教会横で済ませ、最後にゴーザウ湖周辺をハイキングしました。



(ハルシュタット 9/12 日)

(シャーフベルグ 9/12 日)



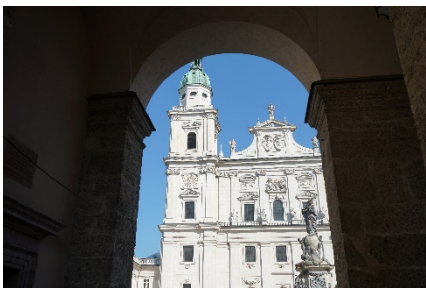


○ザルツブルグ

ザルツブルグの移動日は、これ迄の晴天で少し日程が前倒した為、ハプスブルク家の別荘が有るバド・イシュルの皇室御用達カフェに寄ってティータイム。ザルツブルグは町中がモーツァルト一色で、私達もモーツァルトのディナー&コンサートで最後の晩を優雅に過ごしました。ところで何故かホーエンザルツブルグ城内のコンサートを頼んだはずが麓の別会場に。しかし、日本で中々聞けないオペラが中心で、趣きが異なり甲乙つけがたい内容でした。尚、ここのレストランはヨーロッパで一番古いとホテルのレセプションは言っていました、ほんとかなあ??



(ザルツブルグ 9/13日)



次回、ヨーロッパは晩夏でも感覚的に1ヶ月早くすっかり秋たけなわになっているカナディアンロッキーへ移動し「紅葉カナディアンロッキーとオーロラ 10日間」をお届けします。

記 天溪 赤沼